

記 事

◎第9回理事会(昭.27.2.7) 出席者:大西会長,坂本,西松,今岡,本間,米元,高畑,樺島,仁杉,丸安の各理事,協議事項:第6回日本工学会大会講演に陸連の現状と将来と題し立花次郎氏に依頼すること,

(2)日本学術会議第5部集報原稿了承,(3)海外連絡委員会を設置し,委員として次の方々をお願いすること,委員長:田中豊,委員:石原藤次郎,菊池明,千秋邦夫,立花次郎,本間仁,幹事:平井敦の諸氏,

(4)昭和25年度科学研究費報告審査委員に次の諸氏を委嘱すること,委員長:吉田徳次郎,委員:岡本舜三,後藤正司,平井敦,本間仁,森茂,伊藤令二(中四)石原藤次郎(関西)大坪喜久太郎(北海道)比企野広治(中部)水野高明(西部)鷲尾鯨龍(東北)の諸氏,(5)5月総会における見学先について,(6)論文集の扱い方については各常議員の回答が出揃ってから次回で検討すること,(7)昭和27年度予算案は各理事研討の上次回で決定のこと,(8)会費値上案については大体原案を己むを得ないものと認め常議員会に提案のこと,(9)日本造園学会との会誌交換了承,(10)第8回年次講演会講演割当を次の通り決定した,関東36,北海道7,東北5,中部8,関西20,中国四国7,西部7,計90,(11)サベージ博士資料保管については関係者と打合せの上善処すること。

(12)昭和27年度科学試験研究費補助金の申請書類は4月10日までに提出方文部省大学学術局長から通知に接した。

◎各種委員会

1. 水理準備委員会(昭.27.2.2)出席者:安芸委員長,本間幹事長外各準備委員,協議事項:(1)学術会議内に水理研究連絡委員会を設置方依頼について,(2)この委員会の運営方針及び委員の追加その他,(3)再編第1回委員会を2月18日開催決定。

2. 第1回ハンドブック幹事会(昭.27.2.5)出席者:福田委員長,丸安幹事長,高橋,嶋,柴原の各幹事,協議事項:(1)執筆要項の検討及び各部門の頁数の割当案を作成。

3. 海外連絡委員会(昭.27.2.8)出席者:大西会長,田中委員長,石原,菊池,千秋,立花,本間の各委員及び平井幹事,協議事項:今後国際的学術技術を通じて親善をはかる方策について委員長外各委員の活潑な意見の交換を行った。

4. 第2回法面築堤崩壊防止研究委員会(昭.27.2.8)出席者:最上,星埜,宮崎,原口の各委員及び八十島

三木,門田,岩塚,高橋,伊崎の各幹事,協議事項:

(1)本委員会の名称はさきに地汙り対策委員会としたが問題はもつと広範囲であるので暫定的に標記の通り仮称する,(2)国鉄提案の示方書内容を検討した結果,この示方書中のテーマとして(a)築堤の設計,(b)築堤資料,(c)施工,(d)法面保護,(e)崩壊の対策等を挙げ得るが逐次研討し,且つ地汙り理論を実際に応用して法面防護の具体的方策を確立したい。(3)先づ従来の研究業績を2月末までに各委員から提出すること,(4)今回は3月20日に予定する。

5. 第2回製図規格委員会(昭.27.2.11)出席者:福田委員長,菊池,河野,佐島,高畑,丸安,水越,八十島,樺島,深谷,粕谷の各委員,榎本幹事,協議事項:各担当部門の委員から項目内容及び要望事項の説明があり,委員会今後の方針について質疑応答の後,各部門の審議の前に一般原則を決定する必要があるとの結論に達し,その原案は福田委員長が次回までに作製すること,次にJISの案を尊重しその採択可否を検討し各委員も担当部門の原案を次回までに作製すること,今回は3月17日を予定する。

6. 昭和25年度研究費報告審査会(昭.27.2.13)出席者:本間委員長(代),岡本,後藤,平井,森,石原,大坪,比企野の各委員,協議事項:研究報告を逐次研討した結果,A:16,B:126,C:3,未定:3(報告未提出のため)計147編を決定した。(Aは別項参照)

7. 第2回土木賞委員会(昭.27.2.13)出席者:吉田委員長,大西会長,立花副会長,本間理事,千秋,広瀬,福田,町田,松村(代),大坪(北海道),荒井(中部),石原(関西),鷹部屋(西部),協議事項:(1)編集委員会推薦論文の概要について本間編集委員長から説明,(2)本年度は学会賞,奨励賞共各2編宛を予定すること,(3)本日決定されたしとの要望もあつたが出席人員が $\frac{2}{3}$ に満たないので当委員会では各4編を投票によつて選定した。(4)これを各委員に報告してこの内から各2編宛を全委員から2月末までに投票して貰うこと,(5)その結果委員長外若干の委員立会の上開票し,若し同票のものがあれば再び決戦投票によることとする。

8. サベージ博士文献管理相談会(昭.27.2.14)出席者:大西会長,吉田博士,久保田豊,種谷実,小林泰,佐藤志郎,高橋三郎,村幸雄,小松原の諸氏,協議事項:(1)吉田博士座長となり,種谷氏から経過説明の後文献目録の紹介があつた。(2)種々協議の結果,土

木学会が管理者となつて適当な保管場所（日比谷市政専門図書館の特別室を予定）に保管を依頼すること。保管条件、利用方法等について規程を作成し、その運営方法等を協議するため土木学会内にサベージ博士文献管理委員会を設け、その委員として次の方々を予定する。委員長：吉田徳次郎、委員：佐藤志郎（東京都）、細田和雄（建設省）、種谷実（日本国土開発 KK）、神谷貞吉（電力技研）、高橋三郎（電源開発調査会）、高畑政信（公益事業委員会）の諸氏、文献保管条件としてサベージ博士文庫とし、勝手に分割散逸若しくは処分しないこと、書棚に隔壁を設けること、貸出の場合は土木学会長の証明を要することとし、散会后久保田、小林、種谷、佐藤の諸氏と中川書記長とが市政専門図書館を視察し、同会常務理事と面談了解を得た。

9. 第1回水理委員会（昭.27.2.18）出席者：安芸委員長、井島、井口、岩塚、市浦、伊藤、岩井、岡田、坂本、左合、佐藤、高畑、竹内、寺島、野中、林、細井、本間、三浦、水越（代）、村、米元、井部（東北）、岩崎（東北）、石原（関西）、永井（関西）の各委員、議事：委員長から従来の経過説明があり、久しく中絶していたので再編成後の第1回委員会として特に運営全般に対する各委員の意見開陳を求め、本間幹事長から前後3回に亘る準備委員会で検討した業務目標を提案した。

(a) 水理工学の各分野における新しい諸問題の討論

(b) 各分野の研究現況を明示する綜合刊行物の発刊

(c) IAHR (International Association for Hydraulic Research) に対する国内的連絡

(d) 将来水理公式集の改訂

それに対し JSC の科学研究費配分上参考となる資料を作成し、関係者の研究費を確保すること、海外との資料交換を活発に行うこと、委員会では重要な研究課題を採り上げて研究の推進を図り幹事会は、その方針に充分合致するように推進すること等の意見があつたが、2月末までに各委員から希望課題を申出でることとした。なお主な大学に発電水力の講座を設置する要望があつた。

10. 第2回ハンドブック幹事会（昭.27.2.19）出席者：福田委員長、丸安幹事長、高橋、嶋、柴原（代）の各幹事、協議事項：各主査から提出の目次案及び執筆者を協議し、未だ提出なき主査に各幹事分担して督促すること、次回委員会で協議する事項の打合せをした。

11. 編集委員会（昭.27.2.20）出席者：本間、米元正副委員長、小西（石原代）、脇沢、安部、伊丹、畑野、後藤、丸安、川口、岩塚、粕谷、の各委員、協議

事項：(1) 原稿審査報告及び新原稿審査委員の決定、(2) 第37巻第4号登載論文を下記の通り決定。

坂井秀正：公共土木施設 災害復旧事業費国庫負担法について、栗津清哉：暗渠内の水流について、橋本香一・伊藤文人：跨線道路橋宮城野橋の強度測定、北郷繁：測角の1つの誤差について、成岡昌夫・米沢博：鉄筋コンクリート単純版の剪断力に対する荷重分布有効巾に関する研究、最上幸夫：レール応力計算に関する一考察、川口輝夫・岩井徳雄：ワイヤーストレインゲージのコンクリートへの応用

(3) 討議及び寄稿依頼先協議、(4) その他。

12. 用語委員会（昭.27.2.22）出席者：福田委員長、比田、森、山田、星野、浅野、増村、野中、野口、河口、菊池、奥村、福田、飯塚、佐島の各委員及び久保幹事、協議事項：各委員から提出された原案に対する訂正追加用語の内、都市計画、溶接、橋の設計、コンクリート、材料、上下水道の各部門について審議した。今回は3月7日とする。

13. 第2回ハンドブック委員会（昭.27.2.25）出席者：福田委員長、小西、最上、本間、丸安、松村（代）、友永、立花、富田、清水（代）、佐藤（代）、松井（代）、黒田（代）、木村（代）、岩井（代）、藤井（代）、高木、田中、加納、清野（代）、成瀬、坪井、富樫、岡本、高畑、高橋、柴原（代）、嶋の各委員及び幹事と今岡理事、協議事項：(1) 福田委員長から経過報告、編の構成、主査の変更に対し次のように承認を得た。

(a) コンクリート及び鉄筋コンクリートを施工と設計との2編に分括すること、(b) 数学及び数表の主査に岡本舜三氏を委嘱すること、(c) ダムの主査に空閑徳平氏を委嘱すること、(d) 地質、気象、地震の主査に高畑政信氏を委嘱すること、(e) 農業土木を土地改良とあらためること、(f) 第31編と第32編との順序を入れかえること。

(2) 各委員から次のような提案があり承認された。小西委員：第2編応用力学を構造力学と改める。

田中委員：第11編鋼構造製作法を鋼構造物製作法と改める。

(3) 頁数の割当について各委員から希望があつたが予定頁数より超過したので幹事で目次内容を検討して頁数を改めて検討決定することとした。

(4) 執筆要項案を丸安幹事長から説明し、委員の意見により訂正し、回目の委員会までに要項を作成すること。

(5) 原稿用紙の決定は委員長及び幹事で更に検討し、次回委員会までに決定すること。

(6) 次回委員会を3月下旬に開催し、それまでに幹事で割当頁数、目次を決定し、各委員と連絡すること、

各委員は次回までに執筆委員を決定すること。

◎ その他

1. 朝日新聞文化事業団理事長から朝日科学奨励金に対する研究を推薦せられたいと照会があり、その申込要領は次の通りである。

(1) 本年度の贈呈金は、朝日新聞社寄附による200万円と一般からの寄附金をもつてこれに当てる、(2) 受贈者の決定は学会、研究機関、大学などから推薦された候補について、学界各方面の権威の意見を徴し、朝日新聞文化事業団に設けた選定委員会が行う、(3)すでに研究途上にあるものでも、まだ、これから開始するものでもよい、(4)基礎研究、応用研究いずれもよい、(5)個人研究、共同研究いずれでもよい、(6)同一研究に対して数年継続して贈呈する場合もある。

以上の要領で3月末までに推薦することになっているから御希望の方は当学会御連絡へ下さい。

支部だより

1. 東北支部 懇基会(昭.27.2.16) 参会者: 宮本3段(仙鉄工業)、原田2段格(東北大学)、佐藤2段格(東北地建)、山田初段(仙台特調)、伊藤2段(東北地建)を初め約20名の大小天狗連の腕比べ、A級(5級以上)B級(6級以下)の両組に分れ、春なお寒き会場も熱気堂に満ち、予定時間を超過し、7時過ぎ盛会裡に終了した。各人の戦績は省略する。

2. 中部支部 第11回幹事会(昭.27.2.5) 議題: (1)2月公開講演会、(2)3月見学会(丸山発電所)予定、(3)3月役員会、(4)学生見学会、(5)JSC第5部会の日程、(6)その他について協議。

第3回公開講演会(昭.27.2.23 静岡県歯科医師会館) 演題及び講師:

- 1. 静岡県土木事業の概要 静岡県土木部長 仁科 太郎
- 2. 静岡県下の電力事情と今後の対策 静岡支店長 毛利 勲三
- 3. 国土総合開発計画 東海大学教授 岡本 但夫
- 4. 第3浜名橋梁改築工事 国鉄井田区長 広瀬 郷司

映画:進む鉄道(国鉄提供)、電気となるまで(中電提供) 定刻前から100余名の熱心な聴講者が集まり、同館大講堂を埋め、奥田幹事長の挨拶に続いて上記の各講師それぞれ含蓄ある力強い講演に聴衆は多大の感銘を受けた、次いで映画を映写して盛会裡に終了。

3. 関西支部 第3回役員会(昭.27.2.4) 出席者: 泉谷支部長、松島、福留、橋本、林、和田の各前支部長、浦上幹事長外各役員及び中川主事、協議事項: (1)調査委員会報告、(2)一般事務報告、(3)昭27年度事業計画、(4)5月上旬支部総会開催について。

4. 西部支部 講演会(昭.27.2.25, 国際観光ホテルにおいて) 米国鉄道近況と題し午後1時から講演があつたが当日は折悪しく雨天のため聴講者約50名で講演後懇親会を催した。

昭和26年2月分入退会報告(2.1~2.29 現在)

- 1. 入会 95名(特別員2名, 正員30名, 准員22名, 学生員41名)
- 2. 退会 10名(正員5名, 准員5名)
- 3. 転格 5名(准員より正員え5名)
- 4. 死亡 3名(正員 小林音五郎, 正員 青柳正一, 正員 渋谷正雄)

会 員 現 在 数(27.2.29 現在)

名誉員	賛助員	特別員	正員	准員	学生員	合計	増加数
16名	13名	223名	4 508名	4 936名	1 085名	10 781名	82名

昭和27年3月10日 印刷 土木学会誌 定価 80円
 昭和27年3月15日 発行 第37巻 第3号

編集兼発行者 東京都千代田区大手町2丁目4番地 中川 一美
 印刷者 東京都港区赤坂溜池町5番地 大沼 正吉
 印刷所 東京都港区赤坂溜池町5番地 株式会社 技報堂

東京都中央局区内千代田区大手町2丁目4番地 電話和田倉(20)3945番
 発行所 社団法人土木学会 振替東京16828番